

おちゃおん おねちゃった!

エコにごセンター

はじめに

多摩ニュータウン環境組合リサイクルセンター(エコにこセンター)では、市民のみなさんがごみを減らし、より暮らしやすくシンプルなライフスタイルを実践するきっかけづくりとして「陶磁器製食器のリサイクル事業」に取り組んでいます。

その一環として、家庭で使わなくなったり、割れてしまった陶磁器製食器を回収し、再び食器の原料として使うシステムづくりに挑戦しています。

本冊子は、各ページにおとな向けのコメントをつけました。家庭で、地域で、学校でおとなと子どもがいっしょに読みながら、陶磁器製食器のリサイクルに関心を持っていただきたいと思っています。

多摩ニュータウン環境組合リサイクルセンター
センター長 江尻京子



食器は使用后、なるべく早く洗いましょう。放置しておくと食品の色素がこびりついて取れにくくなります。



割れてしまったら、破片についている汚れをよく落とし、乾かしましょう。

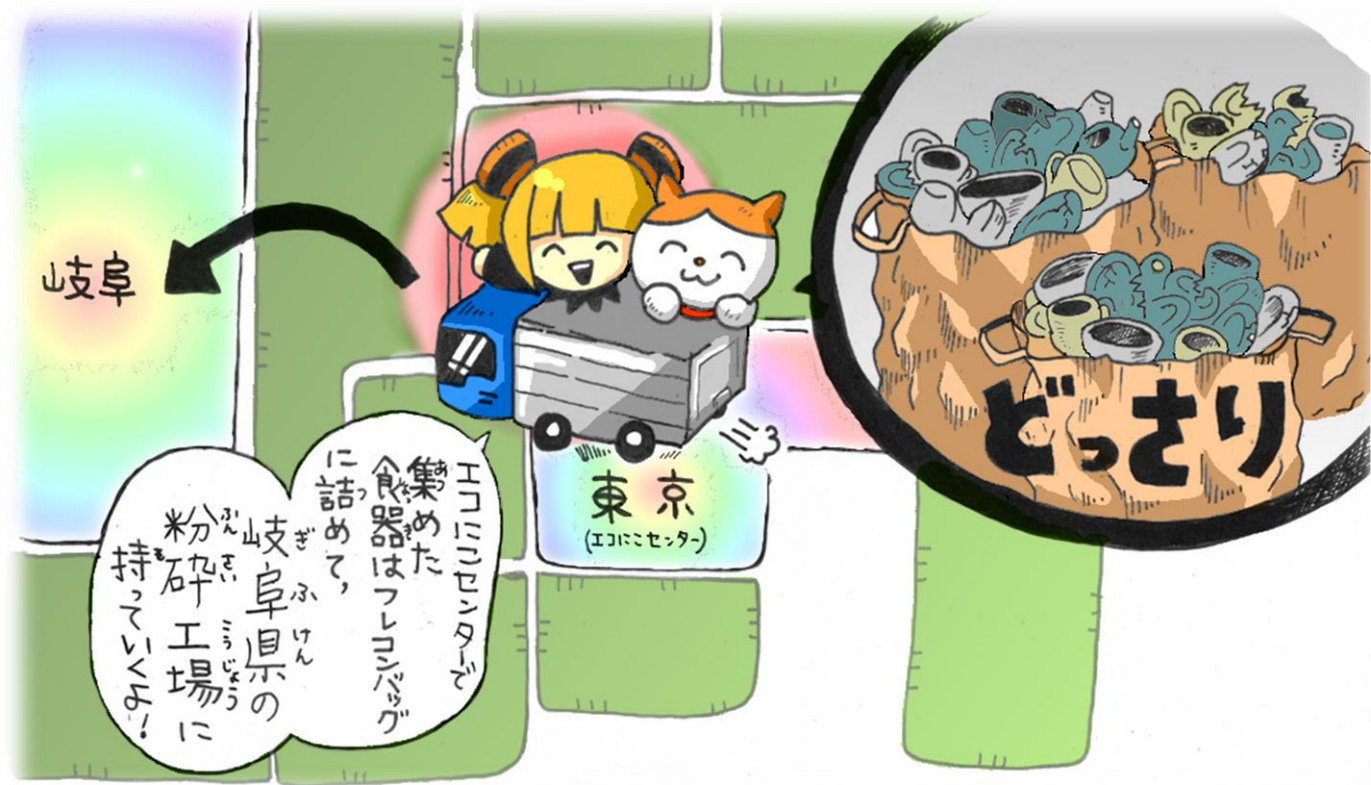
その際、けがをしないように注意し、あぶない場合には無理せず不燃ごみに出しましょう。



八王子市・町田市・多摩市の住民の家庭で不用になった陶磁器製食器が対象です。
割れたもの以外に、欠けていても、新品でもかまいません。



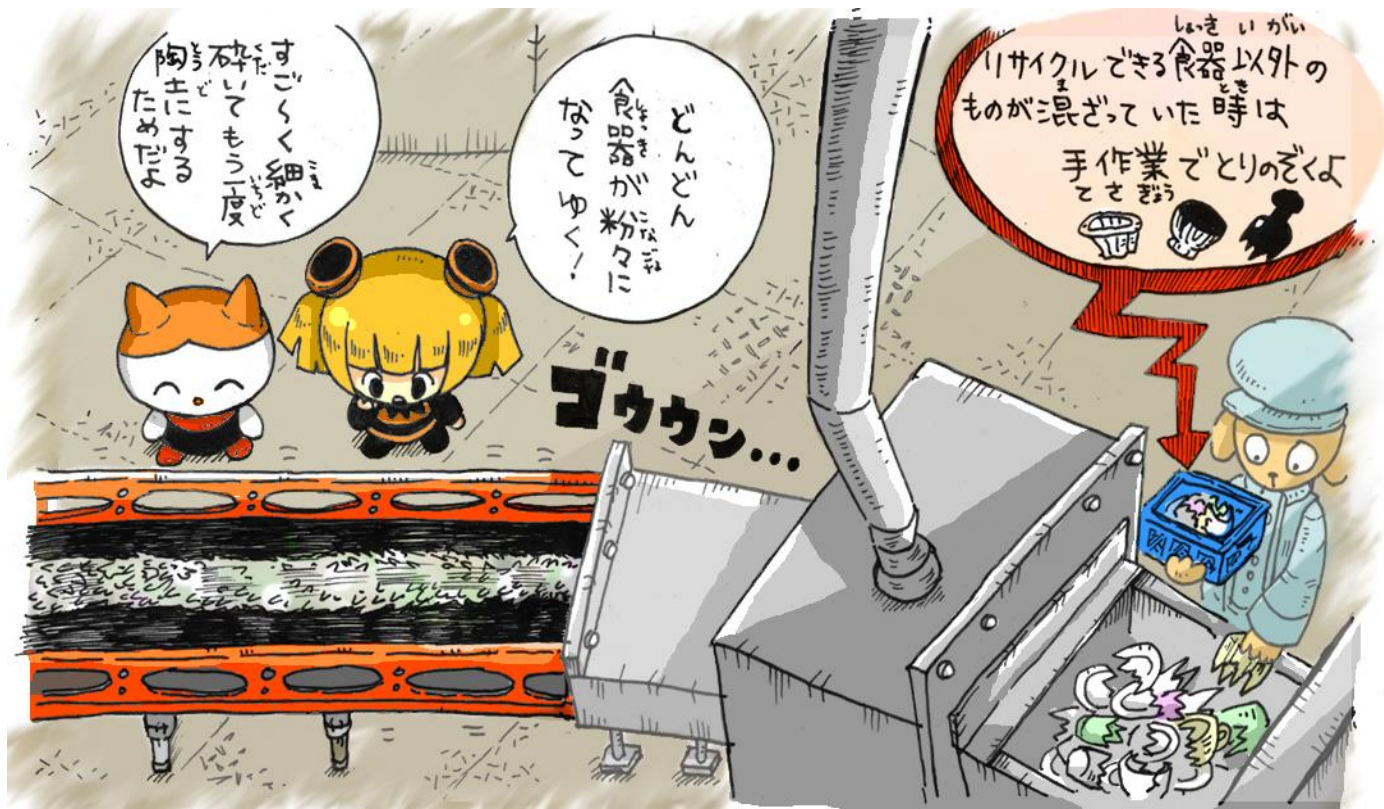
陶磁器製食器でも、直接火にかける爛びんや土鍋などは土の種類が異なるため受け取ることはできません。
食器を包んできたり、入れてきた紙やプラスチックシートなどはお持ち帰りください。



エコにこセンターで回収した陶磁器製食器は、岐阜県土岐市にある食器専用の粉砕機を持つ工場に運びます。



陶磁器製食器のリサイクルに関心を持つ人の輪が全国に広がっています。
自治体単位だけではなく、市民グループで回収をおこなっている人たちもいます。

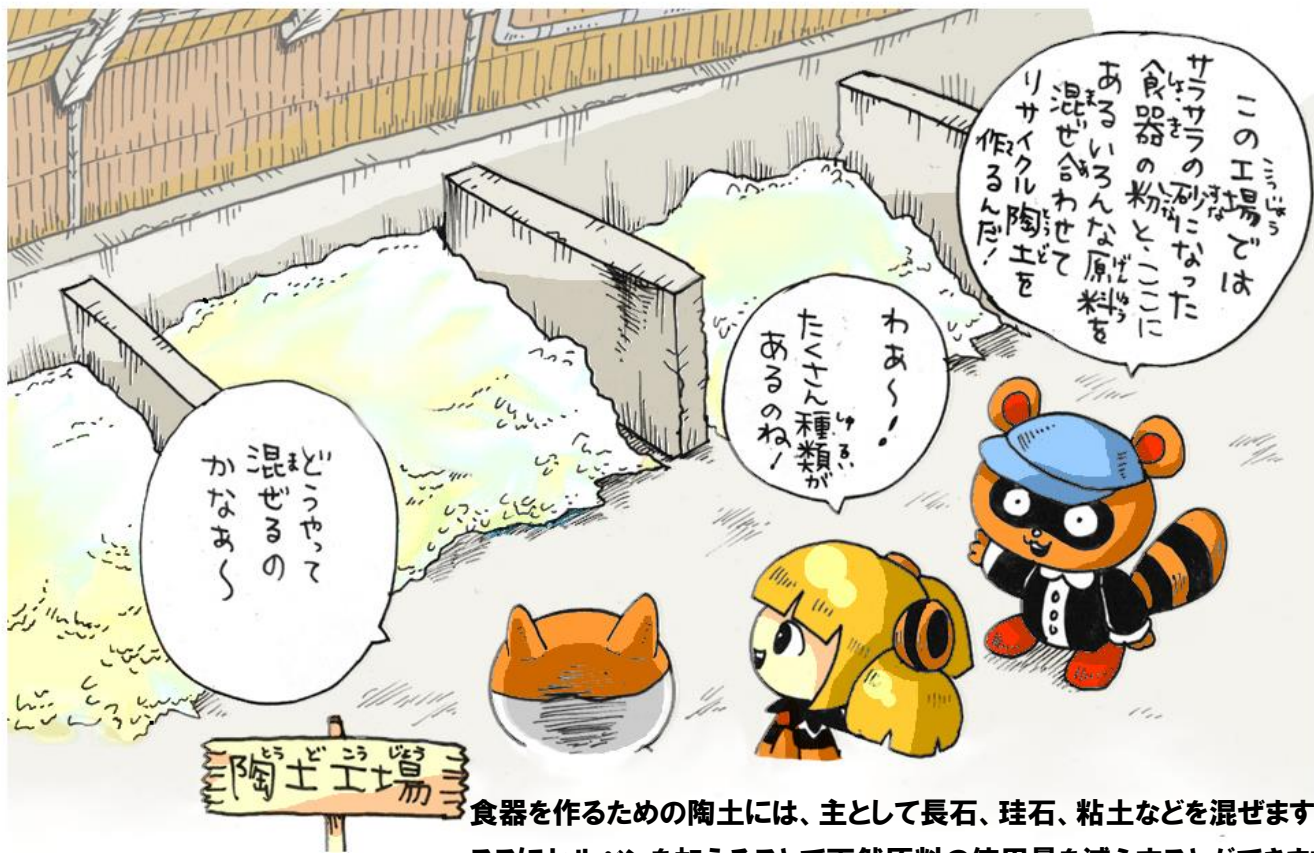


エコにこセンターでは異物が入らないようにスタッフがきびしくチェックしています。
「ほごり」も異物と位置付けています。汚れているものは持ち帰っていただいています。

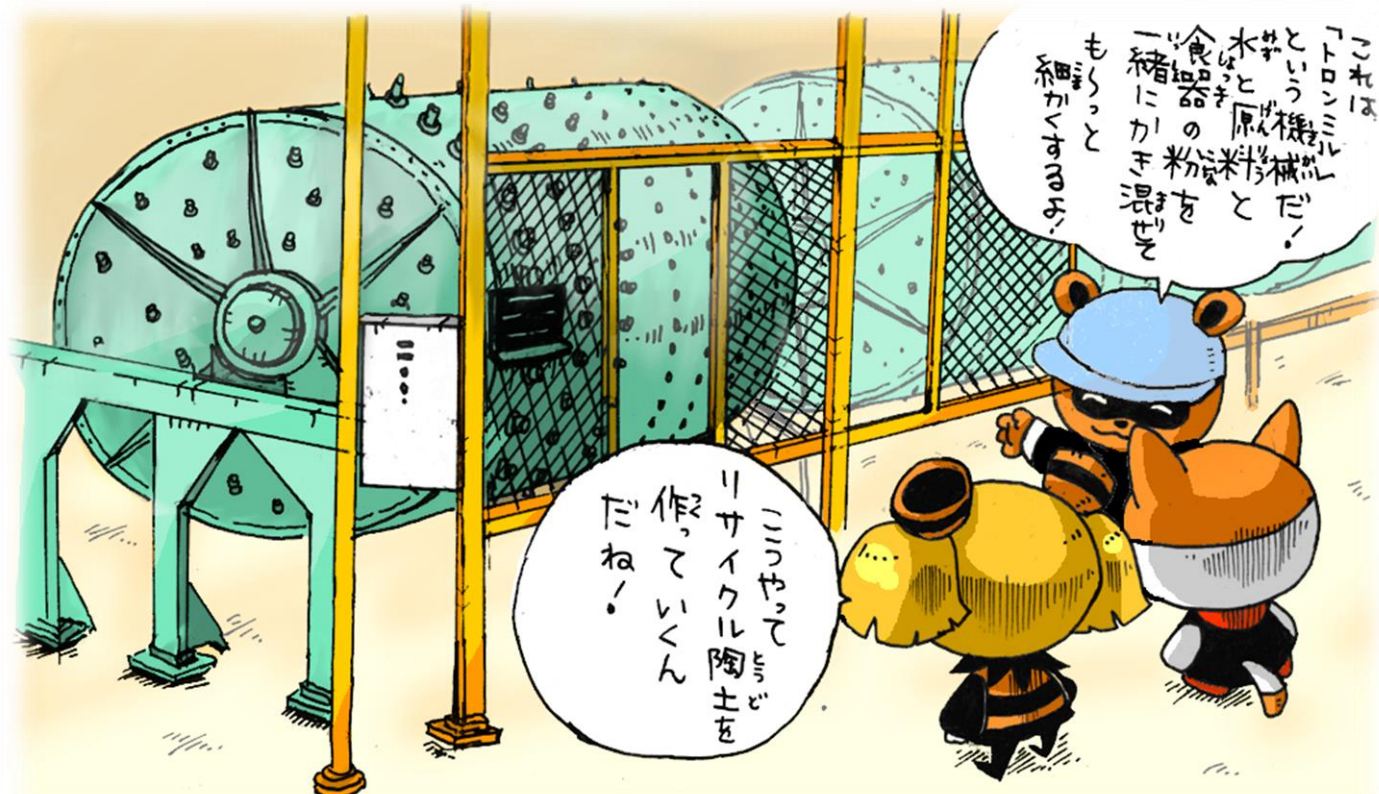


まくらら、
石^{いし}みたい^にに^こ細^まかく
な^なった^たで^いし^よ？

粉碎工場では 1 ミリほどの粉状にします。食器などのやきものの粉碎物をセルベンといいます。

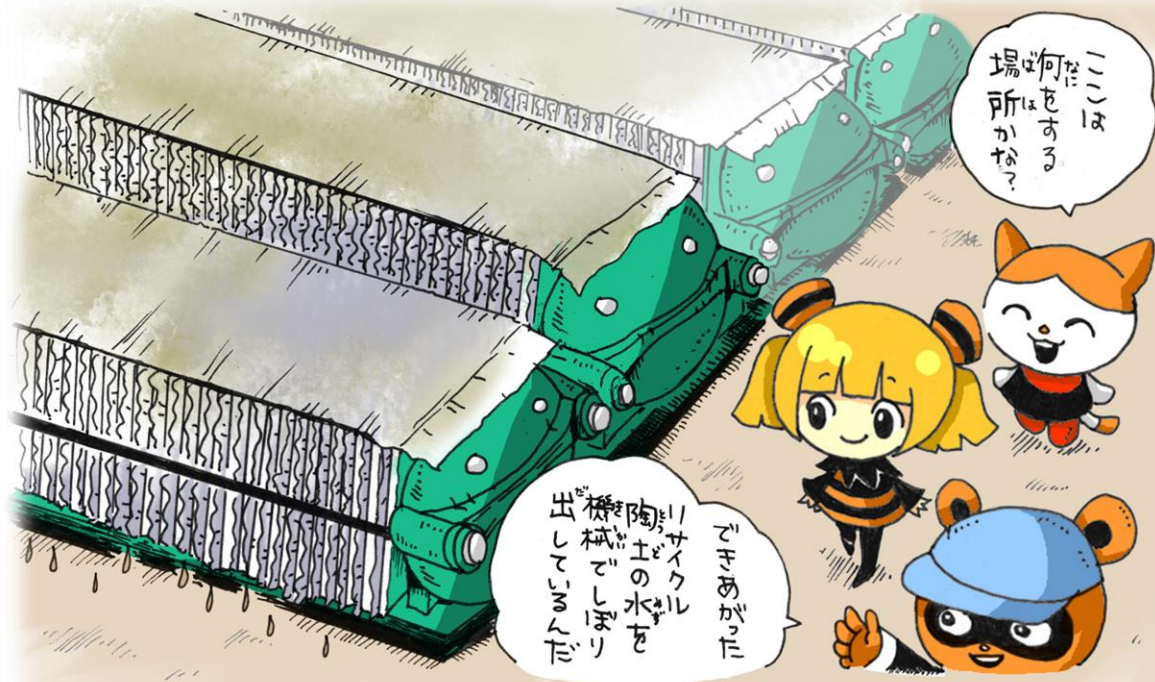


食器を作るための陶土には、主として長石、珪石、粘土などを混ぜますが、ここにセルペンを加えることで天然原料の使用量を減らすことができます。

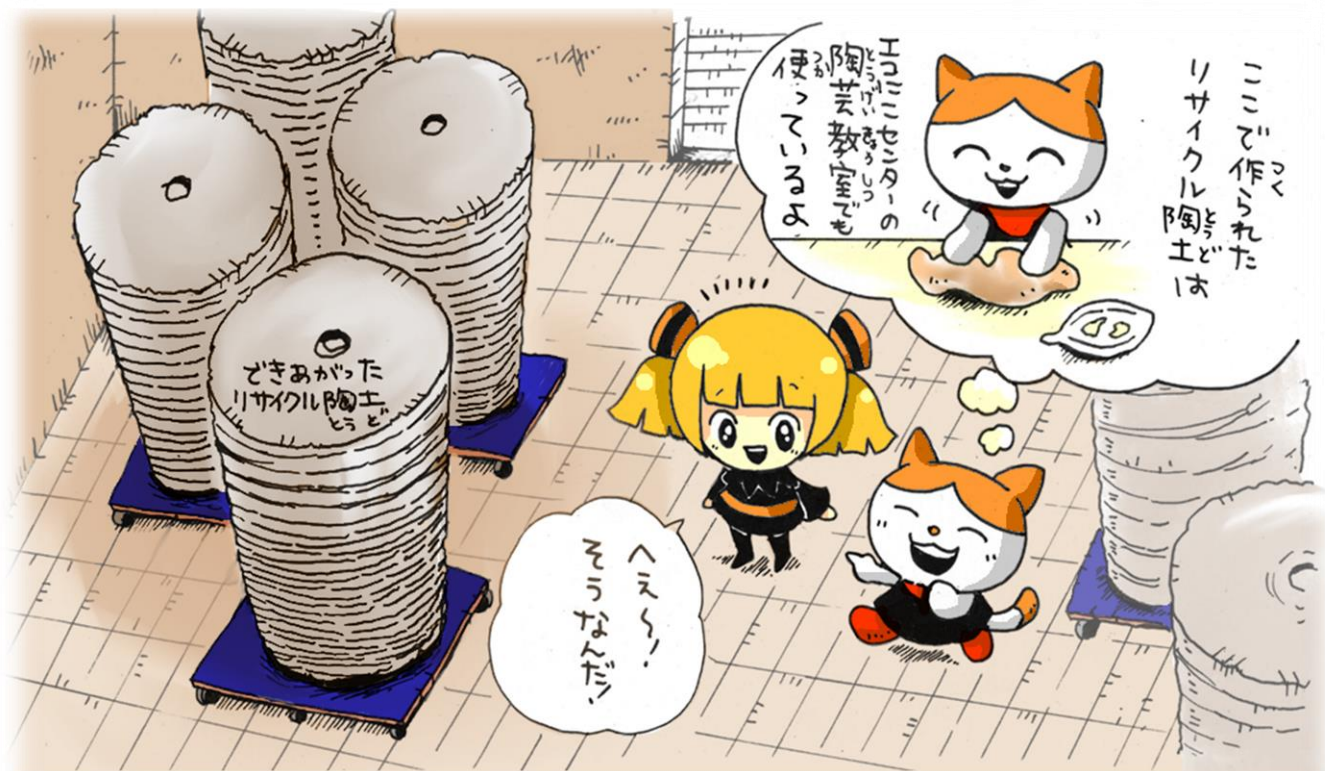


なめらかな陶土を作るために時間をかけてゆっくり練り上げます。

トロンミルの中には玉石という丸くて堅い天然の石が入っていて材料をすりつぶしながら混ぜていきます。



どろどろのペースト状になっている陶土の水を絞り、保管や運搬に適するような平たくて扱いやすい形に整えます。

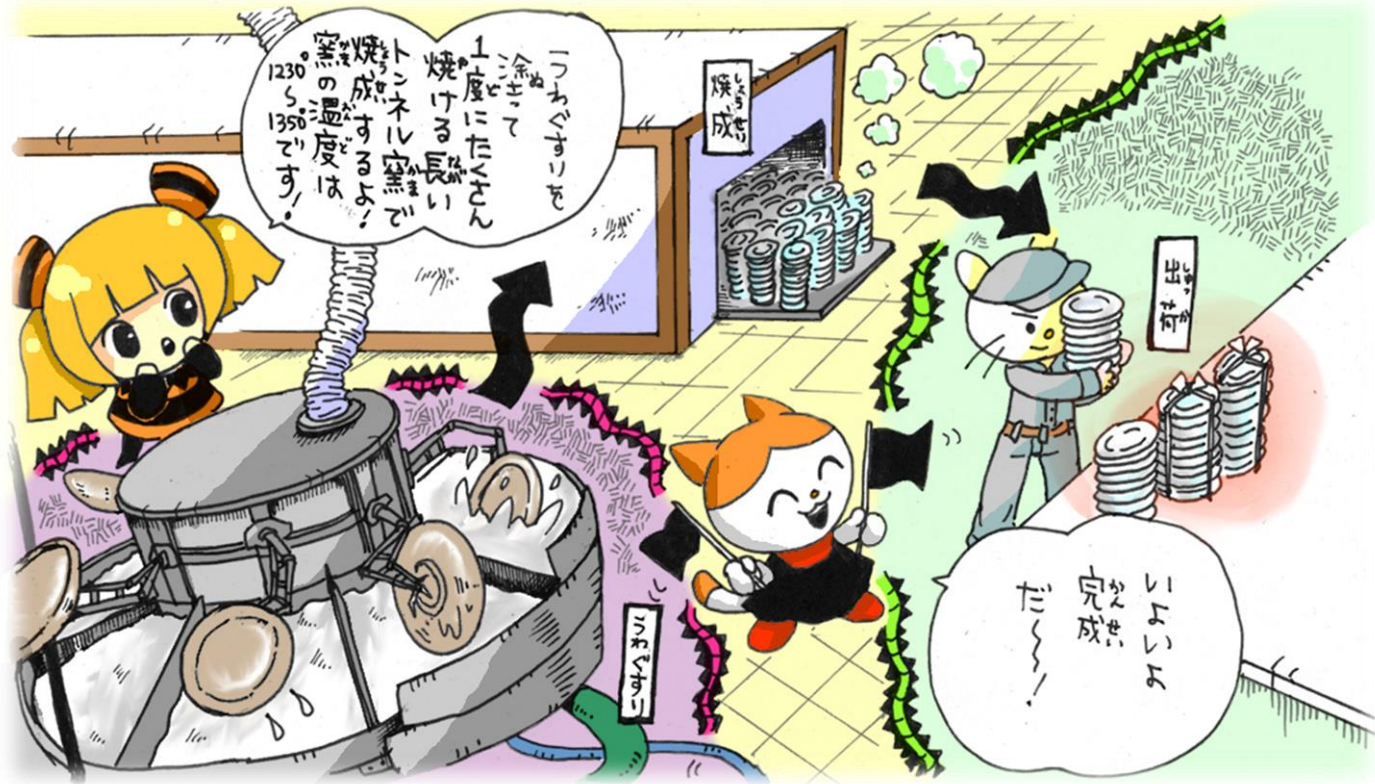


水をしぼった陶土は丸や四角いザブトンのような形で製陶会社へ出荷されます。
エコにこセンターではこのリサイクル陶土を使った陶芸体験を行っています。



石膏でできた型を使って、どんぶりやお皿などの食器がどんどんできていきます。

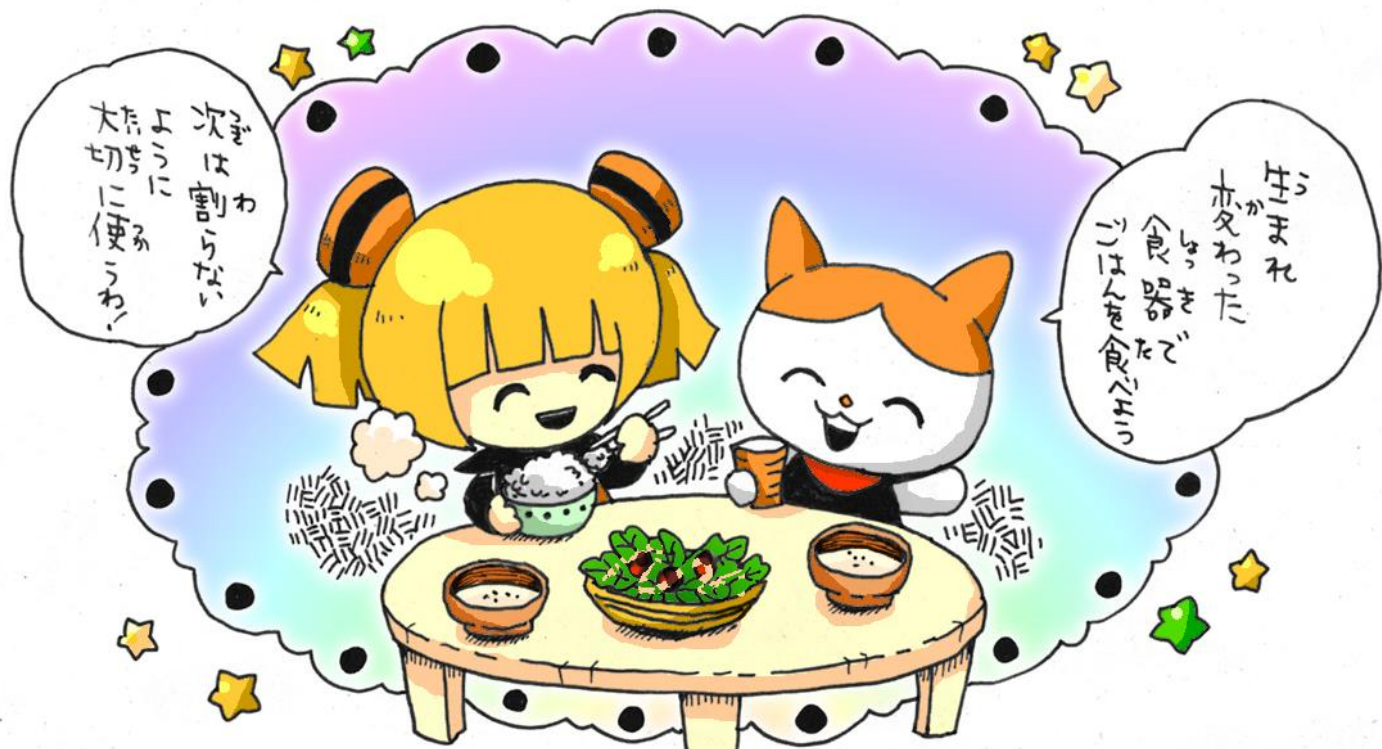
機械というよりロボットの手が動いているような感じです。



製造工程の多くは機械化されていますが、最後の検品は熟練した人が厳しい目でチェックします。



現在、回収した陶磁器製食器を 20%または 50%含んだ食器 (Re 食器) が商品化されています。
エコにこセンターでも展示販売しています。



割れてしまったり、使用しなくなった陶磁器製食器は「ごみ」ではなく、「資源」「原料」として活用できるようなリサイクルのしくみを作りましょう。

おちゃわん われちゃった！ 2012年3月発行
2017年12月改訂

文 江尻京子 絵 大木結実 彩色 前田恵里

協 力 グリーライフ21・プロジェクト
食器リサイクル全国ネットワーク
編集・発行 多摩ニュータウン環境組合リサイクルセンター
206-0035 東京都多摩市唐木田 2-1-1
電話 042-374-6210

※営利目的の転載はお断りします。